

1963年8月20日(火) 決勝 時間2時間13分(13時00分～15時13分) 観衆5万5千人 審判 米谷/山本/大橋/河合

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	盗塁	失策
<b>明星(大阪)</b>	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1
<b>下関商(山口)</b>	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2

明星	1	2	3	4	5	6	7	8	9
右 片山 宏 3年	二安		一ゴ		左飛			遊ゴ	
遊 中村 真 3	投犠		中直		投ゴ			遊ゴ	
中 木下美智雄 3	遊失		二ゴ		遊ゴ			遊ゴ	
捕 和田 徹 2	二安			三振				遊ゴ	
一 浜田 美彦 2	三振			中飛				遊ゴ	
三 松村 文雄 3(主将)	右飛			投ゴ				遊ゴ	
遊左 堀川 浩伸 2		三振			右飛			中安	
二 山岡文次郎 2						中安		投ゴ	
一 森永 牧雄 2		三ゴ							
左投 角田 哲美 2		一ゴ							

下関商	1	2	3	4	5	6	7	8	9
右 坂本 勝治 3	二安		四球		中安	三振		二ゴ	
二 清田 幸男 3	遊飛		三振		右飛		遊ゴ	遊安	
中 西村 毅 3	三失		四球		二飛		投ゴ	投ゴ	
遊 佐野 芳徳 3(主将)	右飛		一ゴ		左飛		遊ゴ		
捕 池永 正明 2	右飛		遊ゴ			左三		三振	
一 綿部 正尚 2	二安			左邪	右二			四球	
三 岡田希代達 2	右飛			二安	投ゴ			投ゴ	
捕 秋田 健二 2	一犠			一ゴ	死球			遊ゴ	
一 加治 善昭 2	遊飛								
打 坂本 太平 2						三振			三振

投手	堀川	角田
投球回	5½	3¾
打者	26	13
被安打	6	1
奪三振	1	4
四死球	3	1
自責点	1	0

投手	池永
投球回	9
打者	33
被安打	4
奪三振	5
四死球	1
自責点	0

# あの夏 1963年 明星 × 下関商 1

## 伝説の剛腕挑んだ春夏連覇

この夏、甲子園に懐かしいユニホームが戻ってきた。左胸に大きな「S」の文字。20年ぶりの選手権出場を果たした下関商(山口)だ。

「下関商」の愛称で知られる同校は、今から半世紀以上前の1963年、前年の作新学院(栃木)に続く史上2校目の春夏連覇に挑んだ。夏は決勝で明星(大阪)に敗れたが、快進撃を支えた2年生工一ス池永の剛腕が鮮烈な印象を残した。

池永は今夏、母校の試合を福岡市内の自宅で観戦した。「勝つて校歌を歌うのは、子供達にとっては最高の土産です。今回は我々もうれしかったです。甲子園に出る、土を踏む、ひとつ勝った。子供達たちがどういう気持ちでお供のか聞きたかった。短髪は69歳は、遠い夏の自分を重ね合わせているようだった。甲子園を沸かせた歴代の投手に間違なく入る一人だ。彼が人々の記憶に深く刻まれたのは、その後の歩みにもある。卒業後、プロ野球西鉄に入団し、1年目の65年に20勝。以後、高卒新人の20勝投手はいない。6年目の70年に早くも100勝に到達した。が、野球賭博にからむ「黒い霧事件」に巻き込まれ、永久追放処分を受けてしまう。それが解けたのは2005年、35年後だった。

球界からこげんと消えた右腕は、伝説となった。山口県防府市出身の作家、伊集院静(65)は96年、池永の復権運動の一環で開かれた下関市内のイベントに「今でもあなたの夢を見る」と題した、次のようなメッセージを送っている。「あれはまだ私が野球少年であった秋、甲子園のヒーローであったあなたが、球場のこげら落として来られた時です。あなたの投げたボールの速かったこと。風を切るというより、あなたの指を離れたボールがダイヤモンドの中につむじ風を起しているように少年の目には映りました」。高校時代の池永の姿が、タイムカプセルから飛び出したように浮かぶ。

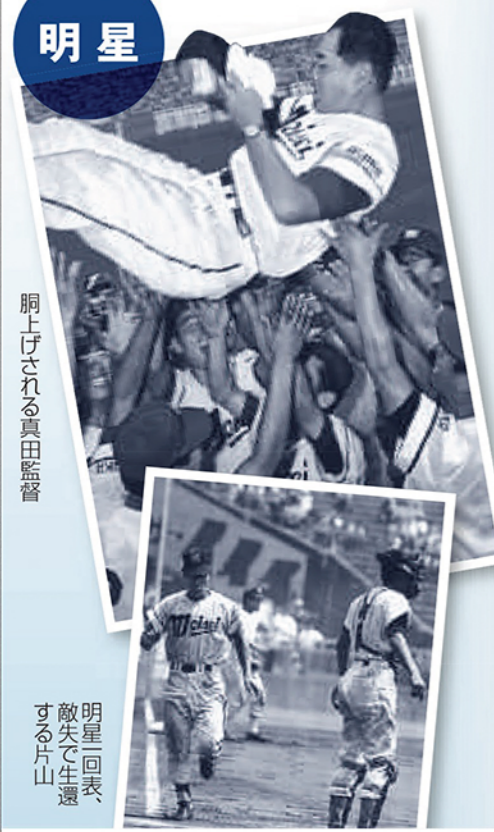
中学2年生で野球部の投手だった伊集院は甲子園を夢見ていた。「左足を高く巻き上げるフォームで、アウトコース低めにどんどんストライクを決めるんだ。マウンドの立ち姿もきれいで、僕の周りも池永さん一辺倒。少年野球の光みたいな存在だった」。池永は終戦1年後の46年8月、山口県の豊北町矢玉という小さな漁港のある町に生まれ、育った。下関から山陰線です1時間の長門二見駅から、さらにバスで10分ほどの神玉中時代には、すでに大投手の片鱗を見せている。中学3年の10月ごろ、下関商の練習に参加した時のことだ。硬式球でレギュラー相手に直球だけを投げ、当たったのは3〜5番だけじゃなかった。4番は卒業後、阪神へ入団する実力者だった。この時5番を打ち、ともに甲子園で戦った西村は「速いし、重いし、見たことのない球だった」と鮮明に覚えている。

さらに才能が高2で花開いた池永は振り返る。「夏の決勝では勝てなかったけど、ほっとしました。春優勝、夏準優勝で御の字ですよ。山口県のために責任は果たしたという気持ちだったですね」。

下関商、明星ともに戦前から選手権大会に出場した古豪だ。明星は、第1回大会(1915年)に参加した73校のうち1校。面校はまず63年春の選抜大会1回戦で顔を合わせ、この時は下関商が5-0で勝って頂点まで駆け上がる。夏は明星が雪辱し、大阪に3度目の優勝旗を持ち帰る。参加校が初めて2千校を超え、翌年には東京五輪が控えていた。



このシリーズは堀川貴弘が担当します。敬称は基本的に略します。



明星

明上げされる真田監督

明星三回裏、敵先で生還する片山

1898年	創立	1884年
1906年	創部	1898年
選手権大会		
1915年	初参加	1920年
1917年	初出場	1938年
8回	出場回数	9回
10勝8敗	勝敗	16勝9敗
優勝 1963年	最高成績	準優勝 1939, 63年
1972年	最近の出場	2015年
選抜大会		
4回	出場回数	14回
1勝4敗	勝敗	13勝13敗
8強 1955年	最高成績	優勝 1963年

下関商三回裏1死1塁、坂本勝が二盗に成功

下関商六回裏、綿部の二塁打で生還する池永、捕手和田

グラフィック・高橋 亮知

全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第9シリーズ、1963年の第45回大会決勝「明星一下関商」は、10月17日まで計29回(原則火曜～土曜日に掲載)を予定しています。